

2005年8月4日

立命館大学・ニチコン株式会社

研究と教育に関する連携プログラムについて

立 命 館 大 学

ニチコン株式会社

立命館大学（総長：長田豊臣）とニチコン株式会社（社長：武田一平）は、このたび「研究開発」と「人材育成」の2つを柱とした連携プログラム「Joint Research and Education Program」を形成し、交流提携することで合意いたしました。この連携は、立命館大学においては材料科学分野およびパワーエレクトロニクス分野における研究力・教育力の向上、またニチコン株式会社においては、創立55周年にあたり、今後の経営を支える新製品の開発、新規事業の創出、ならびに高度技術人材の育成を推進、加速することを目的としたものであります。

立命館大学では昨年、びわこ・くさつキャンパス内の総合理工学研究機構の傘下に「機能材料化学研究センター」を組織化し、機能材料分野のさらなる研究力向上に向けた取組みを開始いたしました。また本年の4月には、高度技術マネジメント人材の養成と輩出を目指した「テクノロジー・マネジメント研究科」(MOT大学院)を設置し、研究開発のみならず人材育成も含めた研究・教育の基盤整備を進めてきております。

ニチコン株式会社は、1950年に創立し、フィルムコンデンサの製造を開始して以来、アルミ電解コンデンサ、タンタル固体電解コンデンサへの展開など、常にコンデンサ業界のリーダとして先駆的な役割を果たしてきました。また近年では、今までに培った材料技術を応用し、新たな電子デバイスの開発、あるいはパワーエレクトロニクス分野の電源回路事業にも積極的に取組み、アルミ電解コンデンサ、タンタル電解コンデンサ、フィルムコンデンサ、電源回路の4つの事業を展開しています。

一方で、変化の激しい業界にあって、今後のグローバルな産業・技術動向を見据えた高度な技術人材、とりわけ技術マネジメント人材の育成が急務となってきております。

このような状況の中で、両者が「研究開発」と「人材育成」の両面において連携・交流することにより、研究成果の早期事業化と今後の技術、経営を担う人材の育成の2つの面において大きな成果を期待することができます。

連携プログラムの内容は次のとおりです。

・本プログラムでは、「『研究』と『教育』」(R & E)の2つの軸で交流を行います。

(1) 交流対象

1) 研究

- ・コンデンサ材料分野、パワーエレクトロニクス分野での共同研究開発
 - a) 新材料・方式の開発
 - b) 現象解析、分析・評価
 - c) 技術動向調査分析 など

2) 教育

- ・ニチコン株式会社社員向けのオリジナル教育プログラムの開発と実践
 - a) 多様な教育形態（出前講義、階層別プログラム）
 - b) 実践研修（プラクティカム、インターンシップ）
 - c) 個別技術指導（MOT 関連の個別課題、社会人ドクター養成） など

(2) 運営資金

- ・ニチコン株式会社が立命館大学に研究・教育基金を設置する「Fund 制」での運営システムを導入。

(3) プログラムの実践

- ・「事業計画 - 決算制度」の導入
 - 年初の「事業計画」の策定と年度末の「総括（決算）」
- ・「モニタリングシステム」の導入
 - 3ヶ月を「1ユニットターム」としたモニタリング（チェック&フォロー、プラン）

(4) 「プログラム運営委員会」の設置

- ・双方から委員を任命（計6名程度）
- ・「1ユニットターム」毎に、本プログラムの運営全般、テーマの改廃・新設などの審議、方向付け

(5) プログラムの推進拠点

- ・立命館大学 びわこ・くさつキャンパスに「ニチコン記念研究室」を設置、交流・推進の拠点として活用

以上

< 本件のお問い合わせ先 >

立命館大学 広報課 木田、細野
京都市北区等持院北町56-1 電話：075-465-8122

ニチコン株式会社 総務部 東郷
京都市中京区烏丸通御池上る 電話：075-231-8461